

岩井俊雄アーカイブ&リサーチ

特定非営利活動法人コミュニティデザイン協議会

概要／課題

近年は絵本作家としても知られるメディアアーティスト岩井俊雄は、1980年代半ば以降、アートにとどまらず、テレビ番組、ゲーム、CGアニメーション、電子楽器の制作など幅広く活動し、「メディア芸術」の領域を横断する国際的に評価の高いアーティストである。しかし、岩井の作品や関連する資料は、これまで劣化の一途を辿っている。それらの整理・修復とデジタル化を進め、広く公開することによって、作品の再制作や再評価へつなげることは、次世代の創造活動とメディア芸術領域の発展を促すと考えられる。

体制／手法

岩井俊雄と明貫紘子（映像ワークショップ合同会社代表）が共同で、2021年に立ち上げたプロジェクト「岩井俊雄アーカイブ&リサーチ」をベースにして、5カ年計画（2021-2025年）で実施することを予定している。本事業では、基本的に岩井が個人的に保管する資料を扱う。エンジニアやプログラマーなど専門家のアドバイスをもらいながら、作品の再制作のための技術的なガイドラインを作成していく。全体の事業管理は、特定非営利活動法人コミュニティデザイン協議会が担当する。

成果

（成果物）

- ・ 「時間層シリーズ」より作品《時間層Ⅰ》（1985年）、《時間層Ⅲ》（1985年）、《時間層Ⅳ》（1989年）の修復と再展示
- ・ 「時間層シリーズ」に関する作家インタビュー映像
- ・ 映像作品および記録映像のリストのアップデート
- ・ 映像作品および記録映像のデジタルファイル
- ・ 紙資料および写真資料のリスト
- ・ 紙資料および写真資料デジタルファイル



「時間層シリーズ」3点の展示風景、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]
2023年、撮影：佐藤基

（公開方法）

- ・ 「時間層シリーズ」より作品《時間層Ⅰ》《時間層Ⅲ》《時間層Ⅳ》がショーケース・プログラム「岩井俊雄ディレクション『メディアアート・スタディーズ 2023：眼と遊ぶ』」（CCBT、2023年7月7日から8月20日）にて、関連資料とともに公開された。
- ・ 「時間層シリーズ」をめぐって、制作当時や今回の再展示までのプロセスを関連資料や技術背景とともに振り返るオンライン・トークイベント「資料と語るオンライン・トーク「時間層シリーズ」を再生する」を2023年8月6日に実施し、記録映像をYouTubeで公開中。
（https://www.youtube.com/live/uQgn0iuyh_I?si=ODUyeb490YLR5o2N）
- ・ 「時間層シリーズ」再展示のプロセスをレポートにまとめてCCBTのウェブサイトで公開中。
（<https://ccb.t.rekibun.or.jp/research-notes/time-stratum-series>）

（課題）

- ・ 昨年度に再制作した《映像装置としてのピアノ》とは異なり、制作当時に使用していたMSXコンピューターや三管式ビデオプロジェクターの完動品の調達や修理が可能だったため、オリジナルに近い構成で再展示することができた。一方、「時間層」シリーズにとって重要な機材であるソニー製のテレビモニター「PROFEELシリーズ」は、メーカーから事故の発生防止のために使用中止が求められており、どこまで修理をすれば安全に使用できるか不明確。

（文化的・社会的・経済的な意義）

- ・ 同様なメディアアート作品の保存問題の対処方法について事例を示すことができた。
- ・ 若手インストーラーに1980～90年代のエレクトロニクス機器の使い方を継承できた。